北蝦夷圖說

ル 4
3002
1

北蝦夷圖說

總說部

一

ル 4
3002
1

ル4
3002
1

官準

安政乙卯孟夏新鐫

北蝦夷圖說 全四冊

一名銅柱餘錄

北蝦夷地總說　島名　地勢　產物　交易
南方初島人物　飲食　居家　產業　冠婚喪祭
ラロッコ夷　スメレンクル夷　附錄

北蝦夷圖說

北蝦夷圖說序

琴瑟鐘鼓音之美者也而樂歌之事不作則不能致其美也三牲魚腊味之尤者也而饗食之事不起則不能致其尤也人材之於天下亦然矣雖有非常之人苟不當有為之時則不能致其才之尤美也是世之所以為人材

昭和

不及古也蓋天之生人今猶古則其賦材性
豈有古今之別唯其無事是以無用焉
往時當文化之始　國家將有為於蝦夷
吏人有閒宮氏倫京者奉　命單行入北
蝦夷居二年探其窮北之壤進至滿州之一
府接清官吏語　國家威信而歸於是北

陬之地始得詳焉夫北蝦夷之地緯度雖纔
在五十度內外以自古荒漠寥廓故風氣蓋
與彼卧兒狼德殆相似是以先是不唯邦人
不窮其奥雖西洋夷之貪遠者未有詳之者
也然閒宮氏奮然獨犯艱險焦心思遂得其
要領其功可謂偉矣比之夫是班牙之閣龍

探米利幹。葡萄芽之墨牙蘭一周地球。其剛
毅堅忍濟事於萬里之外之村。豈敢讓之哉。
當時間宮氏所述有北蝦夷圖說四卷。東韃
紀行三卷。足以知其功績之一斑。嗚呼。昇平
二百年之後。一旦將有為則一小吏猶有若
人矣。人材果豈有古今之別哉。由是觀之。世

將大有為也。則人材之出。千歲之下。猶千歲
之上。斷可知矣。但使之如琴瑟鐘鼓之更奏迭
和。以致音之美。三牲魚腊之加籩加豆。以致
味之尤。乃其在其人而已矣。頃友人大枝某
未請序於北蝦夷圖說。會余有深感於間
宮氏。因記其言以為序云。

嘉永七年甲寅十月

江戸　益堂鈴木善教識

東京都立中央図書館蔵書

北蝦夷圖說卷之一

凡例

一凡倫宗演話(えんわ)とするところ其人素よりも多言なるべし且貞廉(ていれん)の下鈍(どん)なる其蘊意(うんい)を採りて盡ひろ〳〵あるもざれハ猶遺漏とするところの多少ゝ〳〵ざるべき歟

一倫宗の性言(ものい)ふ(ふ)ことを(を)ざる者なれば其自見分せざるのことハ総て演話とするなり故小蹶(ちい)如の事ハ又少なるべし

一凡物蝦夷島ふるきものハ悉く其圖説を省て是を載せず

一凡地名物名言語の類夷の称呼とする所ハ悉く片假名を以て

是を記し分ち易くむ

一南方より奥地に至るまで其序次初に人物を出して次に居家産業を記し後冠婚葬祭に終る是を以て夷情事態を概知らるるに足る故に其生平の殊事に至ては奇事あるに随ひ少しばらくて載せることなし

一凡此島に属せるところのまとはヲロツコ○スメレンクルのあるくとも皆此篇中に編むものゝ其俗異ちとゝくとも其地同じき故ゆ他満州のあるくに至るくハ別に紀行と編て是を載せ

一凡此篇中北蝦夷地の字を用ゐる事稀にして此島を称し或

ハ古称を用ひてカラフトと称せるにして其名本蝦夷地に混ぜて文意の錯乱せむことを恐る是所謂私記の如くにして其事に瞭為るむこと知らるるの一端なり

一凡其物の形状文辞に盡しがたき物ハ其大槩を圖せて是を出ひとゝくども本より寫生せて其形を得る能はず其物を見たる事ざるあるざるバ悉く是業公の能なるべし云々

北蝦夷圖說巻之一

常陸　間宮倫宗口述
備中　秦　貞廉　編

北蝦夷地（古称カラフト島）

一此島ハ蝦夷島北地ソウヤ（地名）の北十三里の海を隔て北極地を出ること凡四十六度より五十一度乃間ニ在て其地南北ニ長く（凡二百餘里）東西ニ短し（凡十五六里より狹き所ハ七八里ばかりなる）其周廻凡五百餘里南ハ蝦夷島より對し東ハ大洋をうけ西北を東韃靼（ゆうだつ）州の地方ニ臨める一大島なり其人物蝦夷島のごとき者を島と三分ゐして其ニ居し其他を悉くヲロツコ○スメレ

ンクルと称する異俗の夷是より居ん

島名

一　此島を称してカラフトといふこと其来由を知らべ林蔵此島を巡ってる所島夷より質問いたせし島夷又其来由を知るものなく只蝦夷島の称呼いるかうちと答へ奥地の夷ふるってカラフトと称呼あるたぐさを辨知ってる者なくさそれば此島の本名よあらざるべと明かなり

一　奥地の夷自称してシルンアイノといふサンタン夷島を指してシルンモシリと称し是を以て考る時はシルン此島の本名なるべ如し然るに林蔵東韃に入って諸夷を接せるの間

同船の夷韃夷を對して相語れると聞る韃夷ハ自称してキムンアイノと称し船夷ハ自ら呼で我をシルンアイノなりといひて夷言にて山を称してキムンと云ウンを集居の意アイノを夷の通称なれど是を山居の夷と譯し是を以て顧てシルンアイノの称を按ずに其唇舌発音の間を熟察いたるにモシリウノアイノハ畧語にて夷言島を称してモシリとい則島居の夷と称いふ心なるべサンタン夷の如きハ島夷の言語を解いたるたるべ只其聲音の口ふ発いるかうちみを聞てシルンアイノハ居島なりと思ひシルンモシリを以て称呼いるなれ是を島名とかんべき者なるべ

一林蔵東韃の假府ハ至て官夷と問答の法以て言此島ハ及び
々々ハ官夷徳楞嘎山の四字と書て是と與ふ（乾隆板九邊圖中徳楞嘎山なる者と載ル）是蓋一東韃夷字と製て島ハ名付る所ハ
島名素よりも然るものなりあらびさもれば我　邦呼でカラフ
トとなり北蝦夷地ハ称ルるが如一島の本名ともしべ
一拂郎擦ハ海上圖中サカリインと題せる島あて其島大拭カ
ラフト島の所在ハ置畫ルもの其地名と書ルるもの大ハ称
林蔵の圖中ハ載たるところと合せも蓋一此島と称たるハ
る一是ハ依て林蔵島よりも東韃ハ入る乃間此称呼あるの
所と鑿求せ一ハ東韃夷マンゴー河の源と指一てサカリイ

ンヲウラ（ヲウラハ江の称）と称ルて其河源魯西亞の境界中より發たて徳楞哩名と經其水悉く此島ハ當突て海ハ入る爰と以て魯西亞の属（卯年ヨトロフ島ハ来て乱妄となるる賊夷）皆此島と呼でサカリイン以て称ルは拂郎擦ハ圖中の名依て起ル所ちう
同國ハ別ハ編むとちらの地理書ハ此島と題たてヨレウテ
ボウヤと名づくヨレウテハ蠻語と譯ルバ物と閉塞たる
の意なりボウヤハ島ハ澤ルは其島マンゴー河口ハ在て其
流と閉塞たる如きと見てかるる名と下せるなるべ一以上二
名とも或ハ河名と島名ハ轉ド用ひ又ハ地形の所在と以く
名つけ已う思ふさもハ不題名たるものて猶韃夷の製字

下名ゟ次の如し

一島夷の詞東韃の書ゟ出るゟ排郎察の版ゟ及ぶ云へども カラフトと称せるゟ見ゝカラフトの語ゟ蝦夷島の言語ゟ転ゟ化して竊ゟ量ゟ蓋し本邦の人名つくるとき ゟ往時松前家蝦夷島と撫るの初め此島の夷山且夷と共ゟソウヤゟ渡来し錦玉烟管の種ゟと持来て獺狐狸鹿の皮ゟ交易せしと云其時必韃服或ゟ異製の衣を服し来る故近代と雖ども島夷の所謂支配人番人なるも服ゟ蝦夷島と小異なる の呼で唐人松前方言人を云フと称ス云フゟ数十年来呼習せゟ終ゟ島名と成しゟのなゟむ以上数説を揚るゟ云へども總て

島名とゟへきものなし　玄已六月

命あゟて北蝦夷地の字を以ゟ此島ゟ名づけゟる其地蝦夷島と隔るゟ僅ゟ十三里許其住夷ゟ亦大抵蝦夷島ゟ異ゟ ゟ其奥地異俗夷有と云へども其行支他業少異ゟるのゟゟ同じく是無政の夷壌ゟ豈蝦夷の名を免るゟゟと得むやゟ云へば蝦夷島の北島なゟゟ故ゟ北蝦夷地ゟ本然の島名ゟ称し一つ毎ゟ幾百年来無名の島ゟ也ゟ終ゟ有名の島となれり

地勢部

一此島の地勢南方凡百五六十里の間東はクライカ西ゟリョ十イゟ至るの間を指し

て南方と云下是に倣ふ総て蝦夷島の地味に異なるかとなりといふ色ども高山大岳と称すべき者なく又嶮阻艱難の地も稀なり只小山丘岡の類多くして厭ふべきの堪たる其間平夷曠野あるとなく毅澤湖沼多くして地味至て悪し

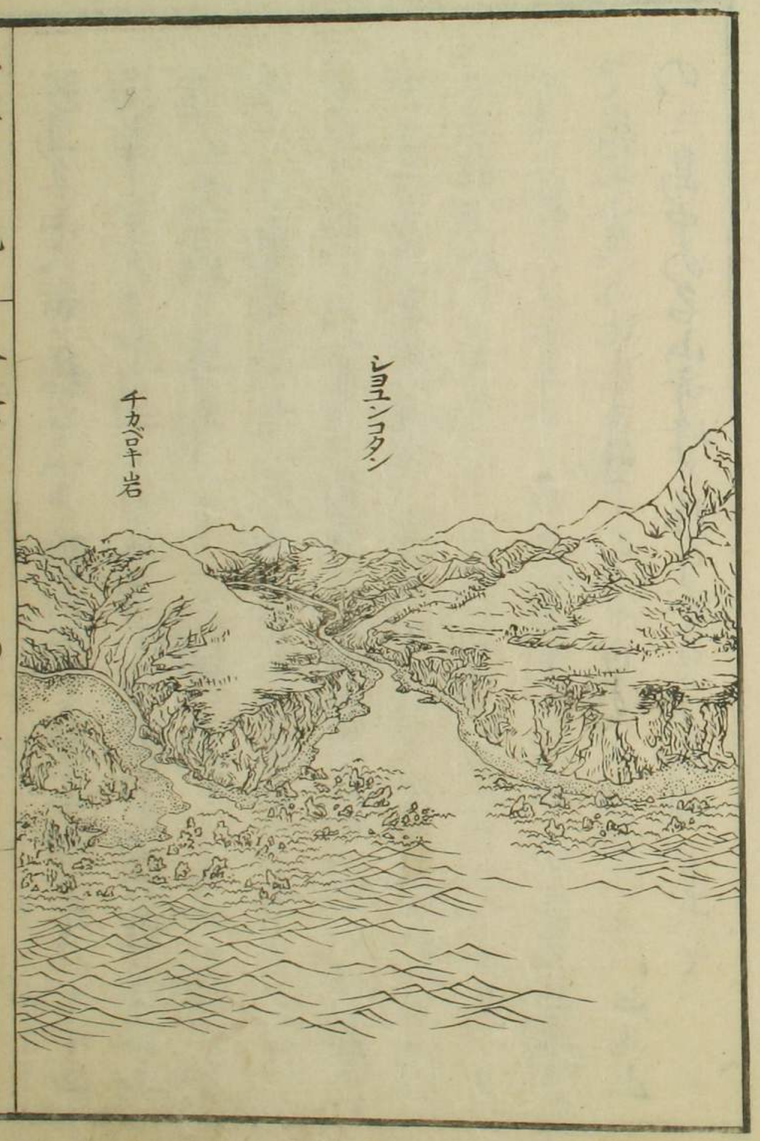
一此島至る處草木茂生せざる所多し故に其地勢鬱々として陰地なりとなく其土悉く乾燥にして水氣なく地上総て草木の落葉幾年とかなく落重りて朽積といへども水氣なき故にや土に化せること多し故に其地味猶更に潤澤なる氣なくして悉く塵土なり其上を行時は趾陷りて脛を没するに至る所多し島夷等時として山野に宿して火を燃て

て棄置く時は其火塵土に燃着し遷延して山林に燒羅し雨あるとなくして其火大抵消却するなく十里二十里の間樹木悉く燒敗ることあり云林蔵氏年の夏初て此島を巡る時ヨツケナイに至り須山火あり二十日ほどを経て此火キトウシといふ處に至て猶炎々たり其間里程凡十里許の間樹木悉く燒敗し同年冬再巡して十一月廿六日トンナイに帰り至らんとするの道數度野宿せしことあり此須既に積雪ふして寒威凌きがたけれども大抵茂林の内に入りて終夜火を燃し暖をとる其火塵土に燃えつき積雪乃中を潛り朝に至て是を見るに丈餘の外に迂延し故に朝く火を消滅して發趾するといふ

一前條に如く塵土なる故に草木根を結ぶとなくして堅實なるあたはざるに其地素より極北の離島なれば時々大風の為に一山二山の立木悉く倒伏するなりと云

キトウレイホリ圖

トッシヨカウッシリ圖



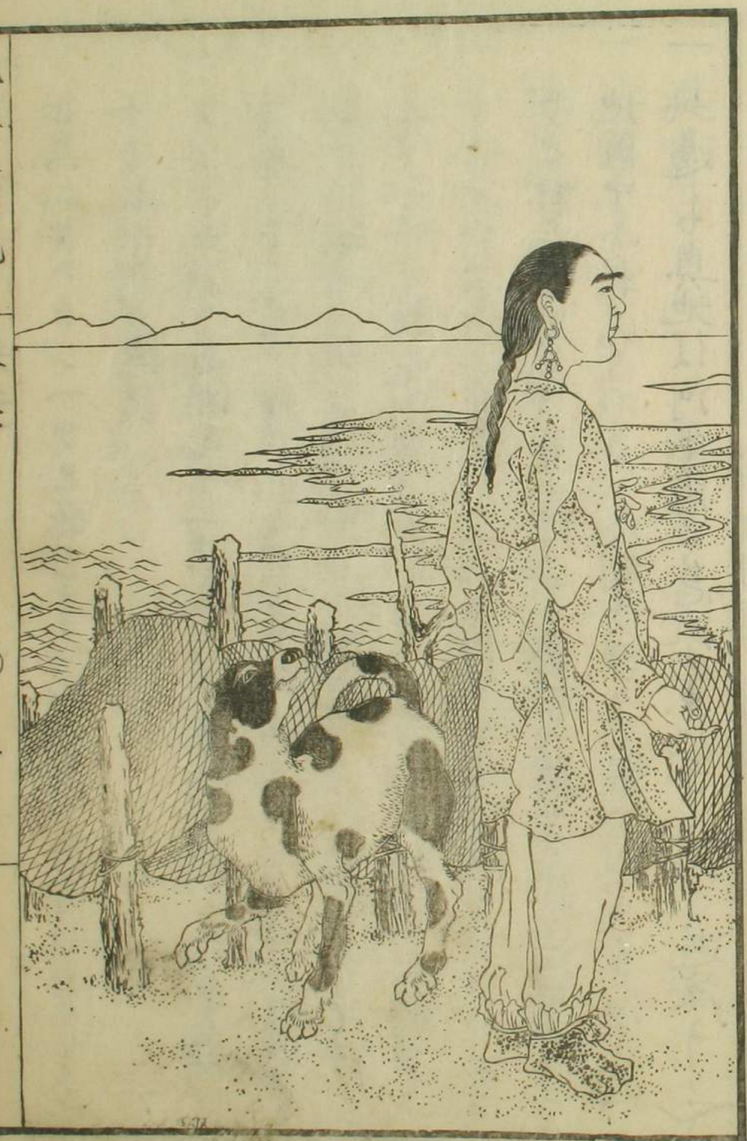
一此島名山大岳と称ちべき物あ記こと初ふ云如くなれども西海岸ヨリキトウレノボリたる者あり其形状圖のあ〳〵一山悉く岩と以て成て突〳〵として劍鋒と称ちるつ如く四方削成ふ〳〵て攀登ちべ〳〵ちべ〳〵其高度ち林藏量て来らざれバ記ちべ〳〵ぢ〳〵ふ〳〵ども凡松府の白神嶺ヨ類ひべ〳〵と云然ども其名殊ニ高く渺州の諸夷とい〳〵ども皆能く是と知れて又東海峡シヨユンコタンと称ちる處ヨトツシヨカウウシリと称する山あり一名ホロノボリと称ひ是ふ其麓ヨて嶺上ふ至る迫岩石壘〳〵として攀登ちべ〳〵ちべ〳〵此両山のニ島中の名山奇峰と称ちべ〳〵故ヨ其圖と出て

一シラヌシと称ちるあり凡百ふ十里許西海峡の奥地ヨワンライと称ちる所あり夫ちり凡一里半許北の方ヘニイトンバウシヨ称ちる所ちり〳〵て奥地の方ハ高山絶てあく只陵夷乃小山のニ往〳〵ふ散在ひ夫ちるノテト地名の島ヨ至てハ又小山ちなく實ヨ豁然たる曠野なり然れども其地味ハ南方ヨ異ちるちなく海岸の沙地ちあらざるちハ大抵塵土ふちく水氣なく燥乾の地多し

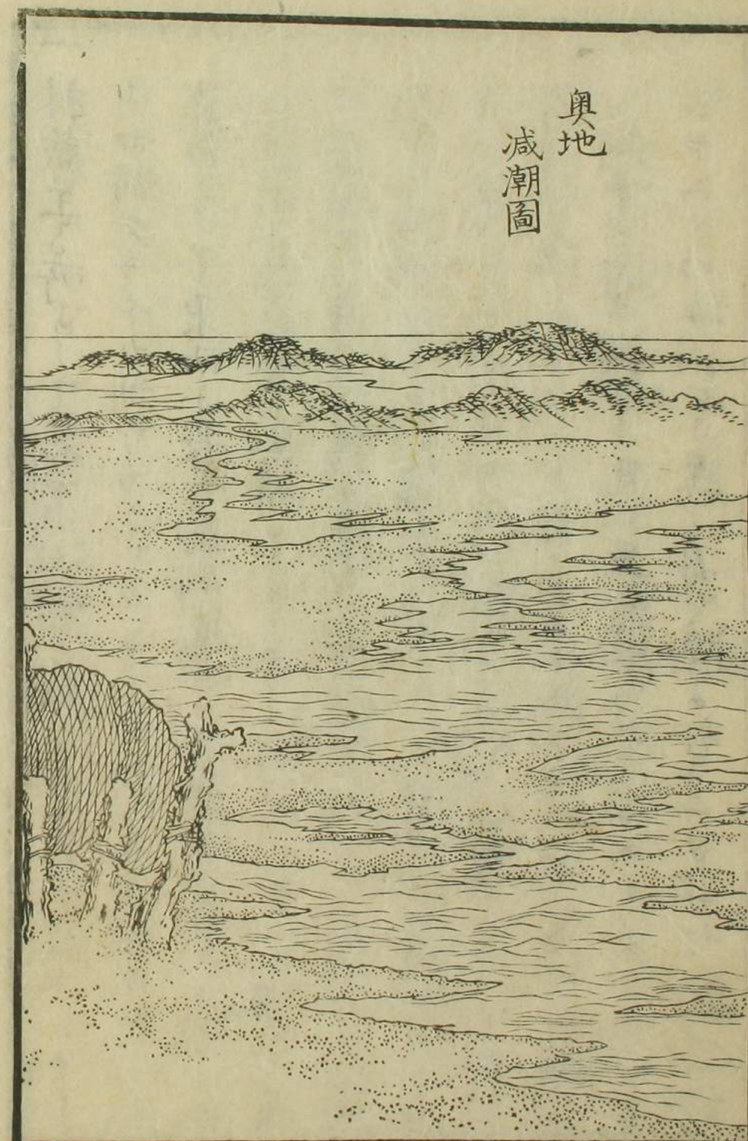
一此島中河流ある赤〳〵ふ〳〵ちべ〳〵ぢ〳〵ちべ〳〵ぢ〳〵大河と称ちべきもれ可〳〵南方百五十里の間ふ在る所只シレー川のニ島中ヘ巨流と称ちべ〳〵然れども其河呂僅ふ四五十間あるのニ其

源トモと称する北流川是ハ島中の一巨流なり林蔵見ざるところなれものあるいハスメレンクル夷の言ところと以て後ヨ附ル　の頭より裳ヲ南流数里トワツカと称し流る所ヨ到テ分流ヲ一ヲナイワプト川と称る其流徐て濁水ありて遅流ヲ源ヲ河口ヨ至るの間西岸徐て四五里の平原ありて岩崖断岸の類なし故ヨ其河潤潛延一西岸悉く湿地ヨヲて沼澤の類ヲ多くと云此他の河流あり大抵歩渡ヲ多く者の多く其舟渡ヲ多く者ヲシラヌシヨリテ東トウフツ○トンナイチヤ○ナイフツ○ナイフツプ○タライカ以上五句皆地名シーと合ヲて八つヲ西ヲライチシカ○ベシトリイ○ナヤシ以上三句皆地名の三河ヨ限ると云

一林蔵至る所ヨヲて島中ヲ大湖と称ヲ多きものハトンナイチヤ湖タライカ湖なりトンナイチヤ湖ハ其周迴凡十二三里許ヲヲて東西ヨ長く南北ヨ狭く其四方丘岡是と圍ヲヨ嶋其内ヨ散在ヲて海峡と云るあり遠くとい乙どて其水鹽氣なり産ヲる虜の魚類ハ雑物の多ヲて品題ヲ多記物なく此湖ヨ至るの道ハシラヌシヨリ東三十里餘ヲヲて千ヘチヤニ○ホラツフニと称ヲる二地名二處ヲヲて舟と陸上ヨ引き、ホントウと称ヲるヨ湖ヨ至アホロトフと称ハる湖中と過ぎ行くと凡二里ヨ近ヲヲトウキタイチペシシヤニと称ヲ川口ヨ至アて舟と陸ヨ引きて凡廿七八町と経



奥地
減潮圖



ルバニマムクシ一ツと称する小川に至る又舟行をトンナイチヤ湖に達ス

一タライカ湖を周廻凡十一里ありて東西に長く南北に狹く海岸を去ること僅に六七町四方平原にして丘岡の類なく湖中小嶼西三あるのみにして潮高なる一大湖なり水淺くして少く鹽氣を帶ス産する所の魚類比目魚鮒多し

一シラヌシと云るあり凡百六七拾里ある西海岸よりウヤクトウと称する所あり是より奥地を海岸総て河地ありて地圖中小載ルるがごとく沼湖多きこと數一得ざるべし

一此邊より奥地は河水悉く急流のもれなく総て遲流ありて濁水なり其外悉く落葉の氣味を存して水味殊に悪し

一此邊トムラウより奥地海面総て平ありて激浪なり然れども其地東韃の地方を隔るあり其間僅に十里七八里近き所に至りて八二三里なる迫所なれば中流潮路ありて河水の鳴流するごとし

一迫慶の内何れの所にても減潮なるあり甚だしく其時に至りてハ海面凡一里餘陸地となり其眺望の景實に日本地の見ざるとなりて其色青黄なる水草一面に小地上に点在蒼茫たるに海水を見ず其形奇なりて圖寫するに難し

一此邊汐時なる　本邦に異なり林藏戊辰の夏六月廿一日十

ツコ崎ニ至テ〳〵ハ其晝八時分の滿潮減ジ去て後其夜五時
分又滿潮ハと云

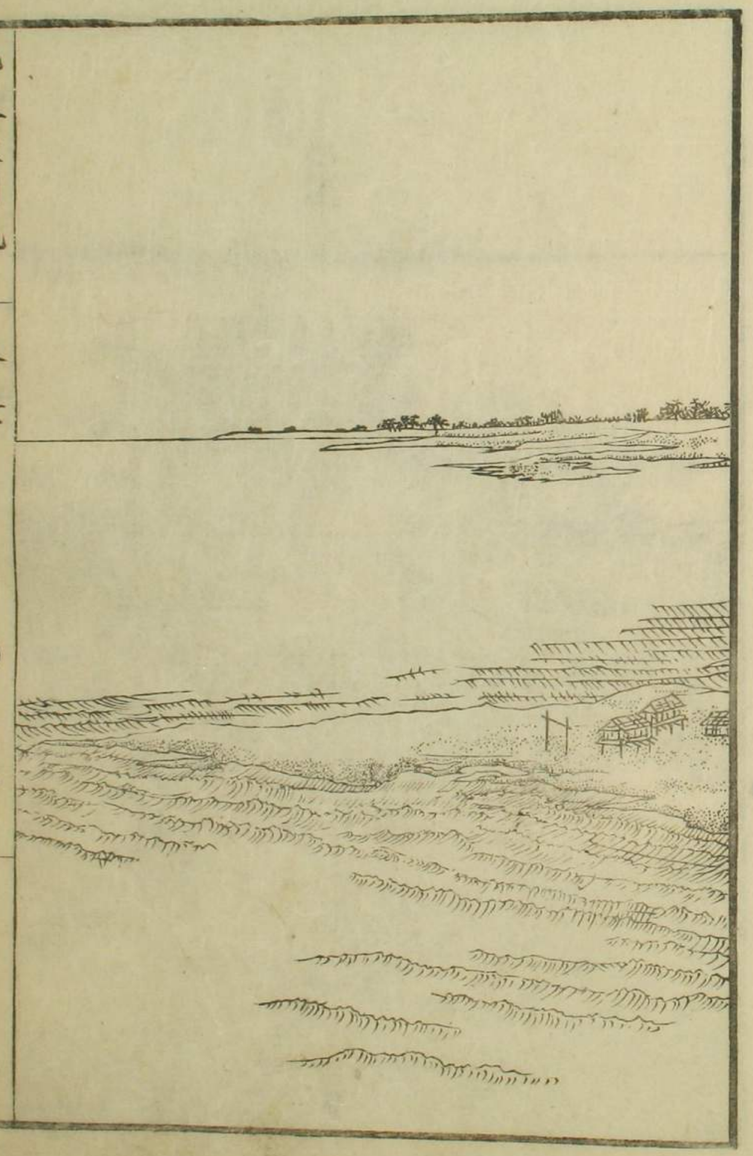
一ラツカ崎トカタムラヲー地名ニ至る迫處のうちは冬月ニ至
テ悉く氷海となり島東往行ス去て其上を往返し或ハ犬を
去て艙を挽〳〵といへども其氷碎破ス去て隕沒ス去ル
とかく

一北邊ハ〳〵て奥地は終歳地中ニ雪あると云其寒地なる未
とかくで

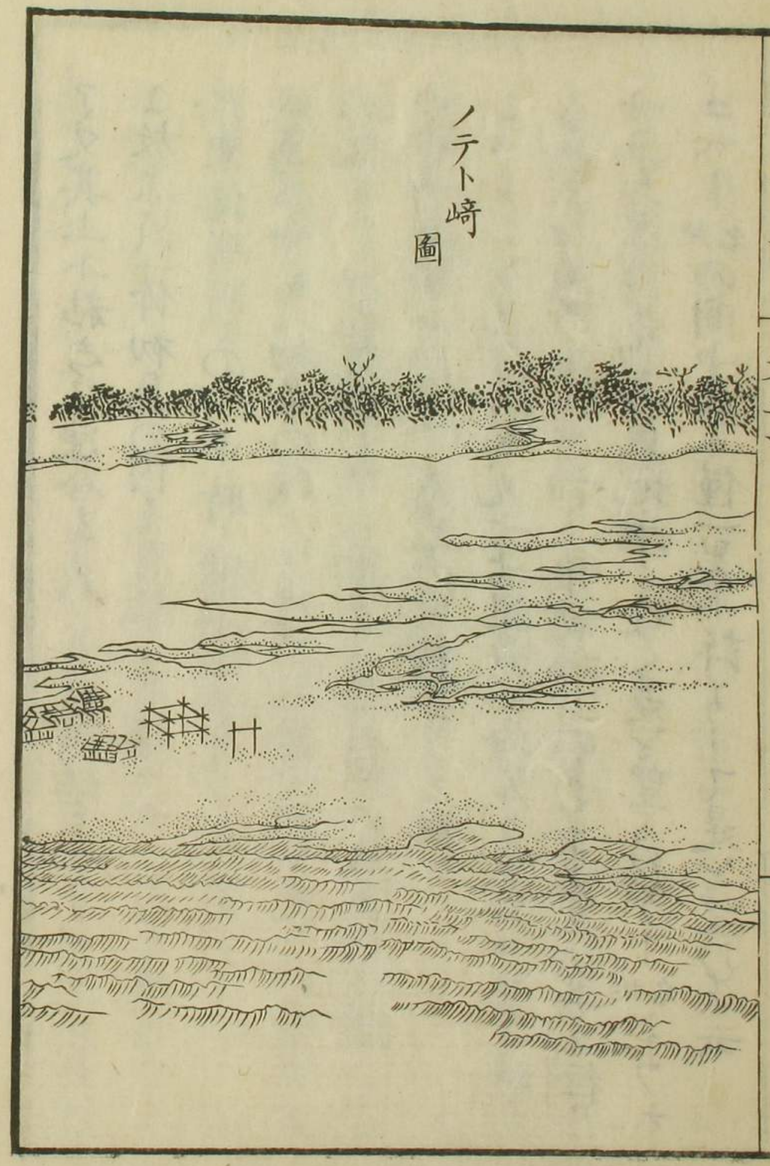
一南方初島の間ハ十月須トなるて雪海上ニ降て積て潮
水総て泥水の如く波ニ隨て海岸ニ打ど也凍合して大なる
巖石の如し巖冬の須ニ至てなて洋中ニなて大氷流ル来
テ又其上ニ粘去て凍合ヲれども風の強きるよりて又大洋
ニ放流ル一体初島の内て自然ニ氷海となるもと絶てなし
只東海岸所〳〵の灣中時く稀ニ凍合ヲるとあり

一此島西海岸ハ初冬の須ニ至るの間支子
の風多く仲春ニ須ニ至て初春の須ニ至るの間東風
いへども終歳中ハ〳〵く暴烈の風稀なりと云

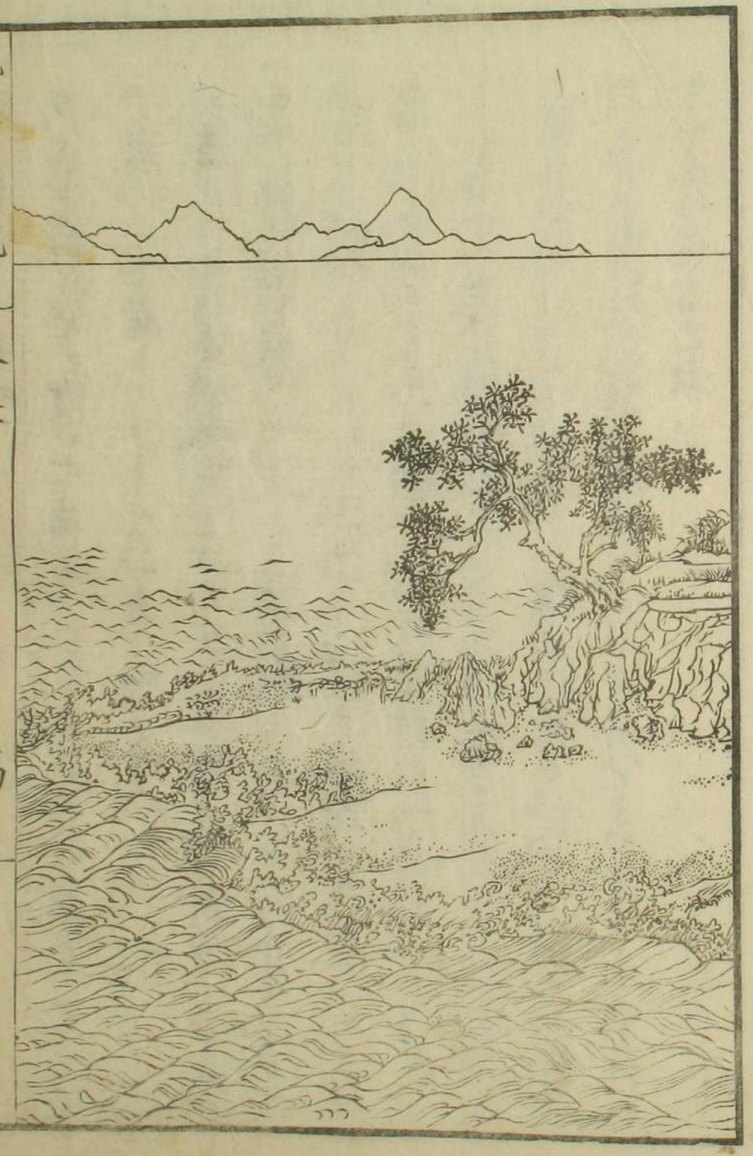
一シラヌシを去るなかく凡七十里許西海岸ニウシロカ〳〵称ヲ
る所あり此所ニして初て東韃地方の山を遠望ル其直径凡
廿五六里許是ヲ奥地漸く近く見を望ヲ望ヲゲー地名ヲホ
コベー地名の間ニ至て僅一里半許ニして是を望ヲと云



ノテト崎圖



ナツコ崎圖



一島夷東韃小舟渡口七處あり シラヌシを去るあ〻凡百七十里許なる處よりノテトと称する崎あり スメレンクル夷称してテワカといふ 此處より北へ東韃地方カムカタと称する所より渡海し其間凡九里の餘を隔つと雖ども海上穏ふして大抵難支あるなり 此所よりナツコふ至る海路に潮時を熟察して舟を出すべし 出すべしあるあと難し 前に如く此邊減潮の時より到てハ海上一里の餘陸地となり其陸地なりざる所に浅瀬多くて舟をやるべからず故に満潮の時といへども海岸に添て行べきあるべし能く潮時を考認て岸を去ること半里許ふて舟をやると云

一ノテトの次なる者をナツコといふ スメレンクル夷ラツコと称し 其間相去るあ〻凡五里許此處よりして東韃カムカタ小至るの海路僅に四里許を隔つ其間大抵穏なりとい〻ども出崎なれば浪うけあるべく殊に減潮の候上文のごとくふるべく其時を得ざれば舟を出すべからず魚類多く無數ふして糧を得るふ之なきの事ミ不便の地なれども島夷大抵ノテトを以て渡海の所となし然れども風順あるべく又た冬月に至て海上怒濤多き時ハ其海路の近きを便として此崎より渡海し難し

一ナツコの次なる者をワケーと称し其相去るあ〻凡八里許

通船の事ハノテトよりナツコに至るの如く能潮時と考へざれバ至るあたハず此處よりして東韃ヲツタカバーハと称する處ハ渡る其海路稍ハ一里餘ハして海上穏なりと云へども迫處あれば中流潮路あつて急河のごとく風候に依て逆浪舟を没する事ありと云

一ワケーの次なるをボコベーと称し此處よりして東韃ワシフニなりいに所ハ渡海し其海路凡僅に一里半許を隔て中流潮路もまるワケーの如し

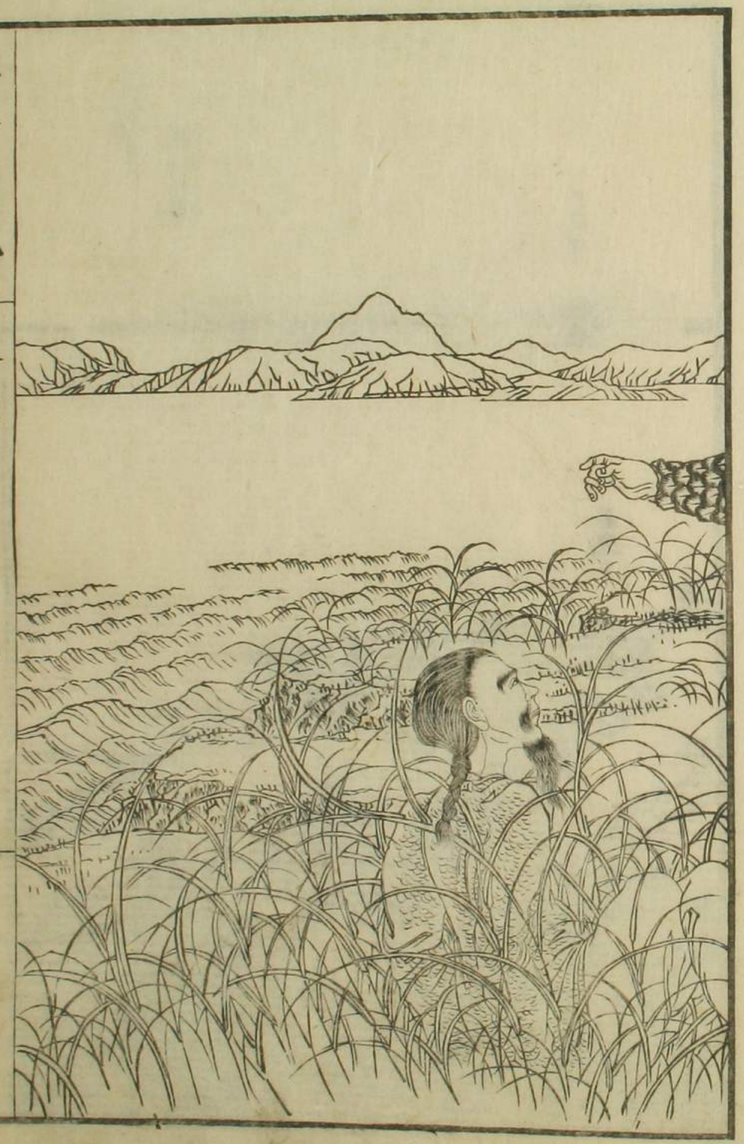
一ボコベーの次なる者をビロワカセイと称しボコベーを去るまつて凡四里許此所よりして東韃の地方に傍ひたる小岐

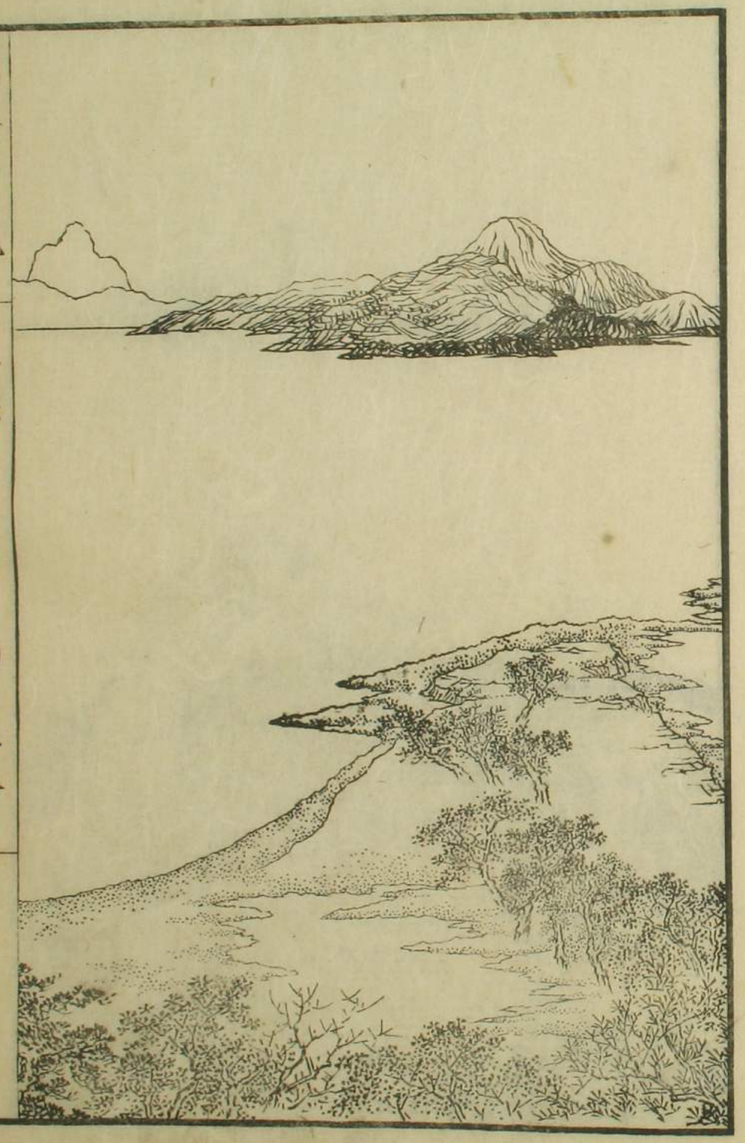
ハ添ひてワルケーと称する所に渡るあり有とゝ雖も海路凡十里許を隔て且潮時の候又波濤の起激あつて船路穏なるべ

一ワカセイの次なる處をイシラヲーといふ其間相去るあつて凡十五ハ里許是よりして東韃地方ブイロハ小渡海し海路凡四里餘中流の潮路殊に急激なるハ此所なるべしては漸く北洋ハ向ひ此島韃地の間里を追ふて相ゆく故小波濤も亦激起するあり多く渡海艱難なりとす

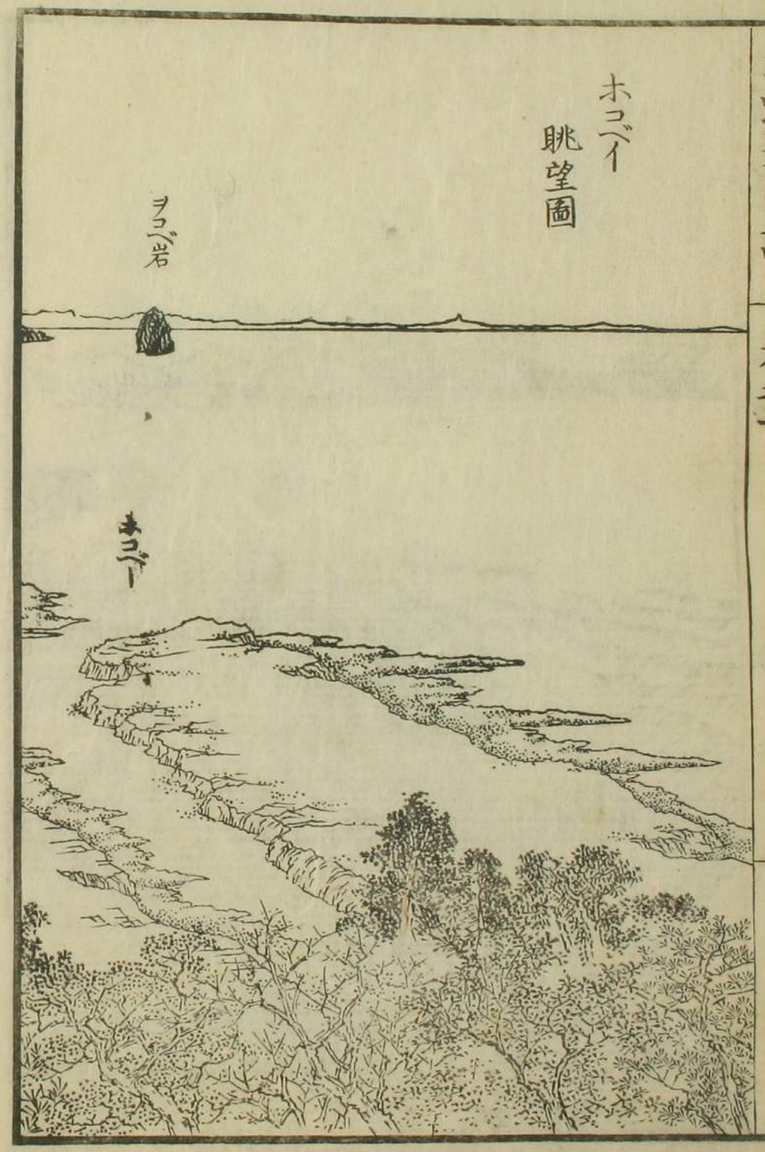
一イシラヲーの次なる所をタムラヲーと云イシラヲーを去るあつて凡五里許なるべし（此所林蔵ハらざる所なれども其詳をしらず）此處よりして東韃地方ラカタといふ所に渡る海路凡八里餘あつて北海

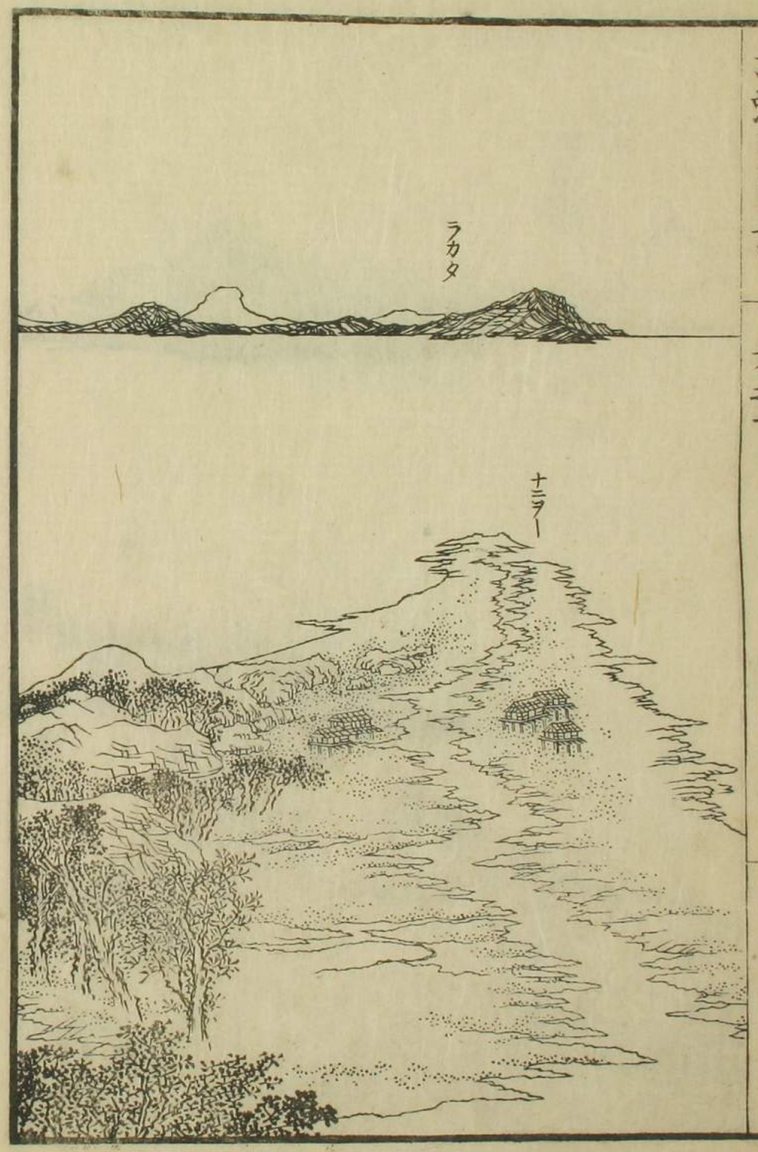
ワケー
眺望圖

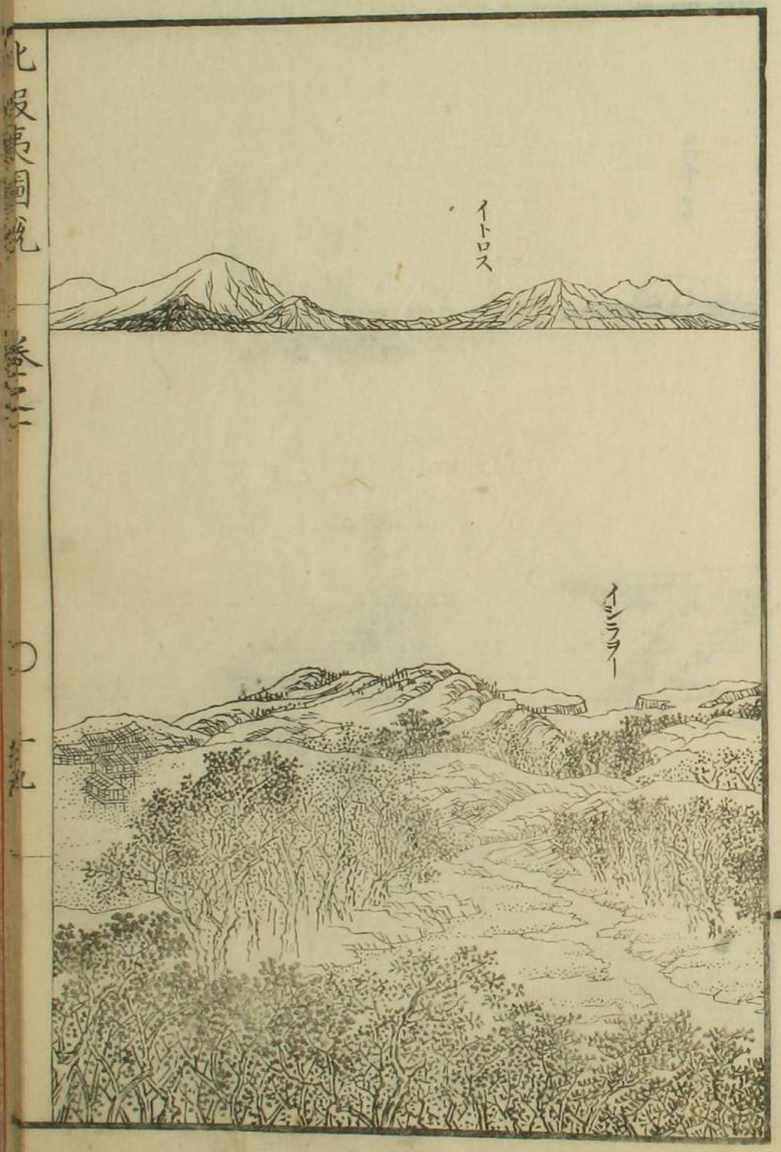


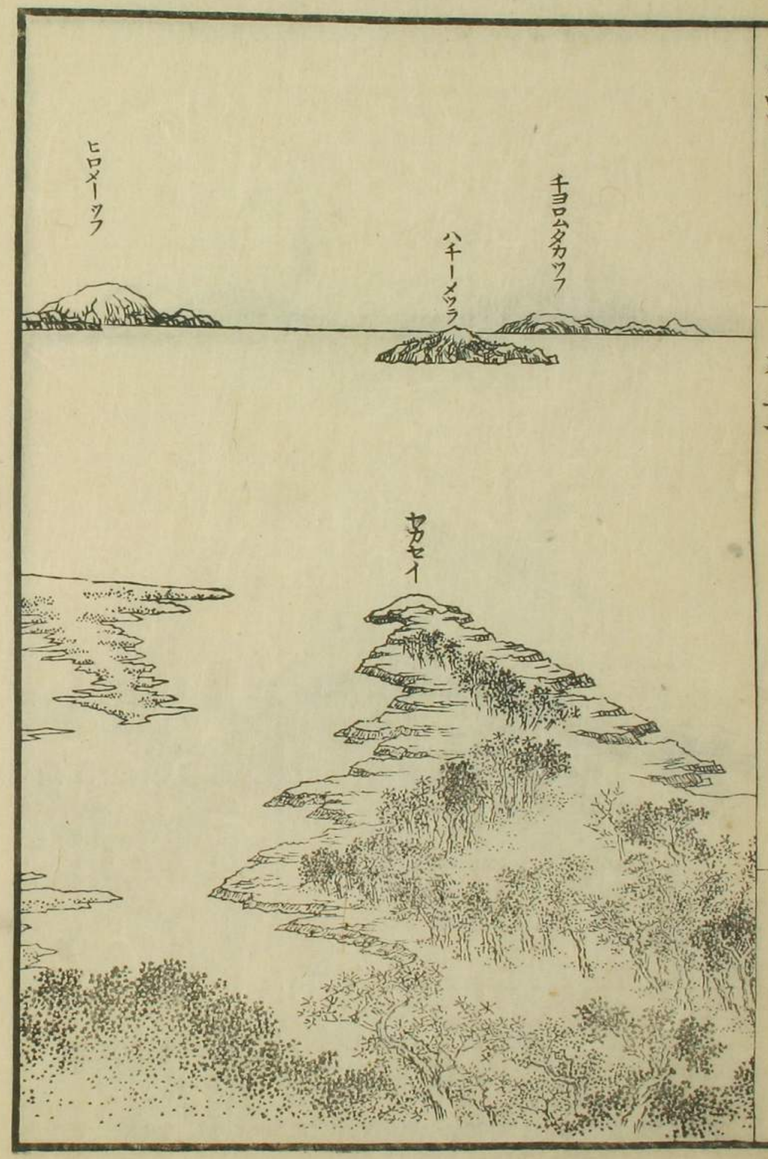


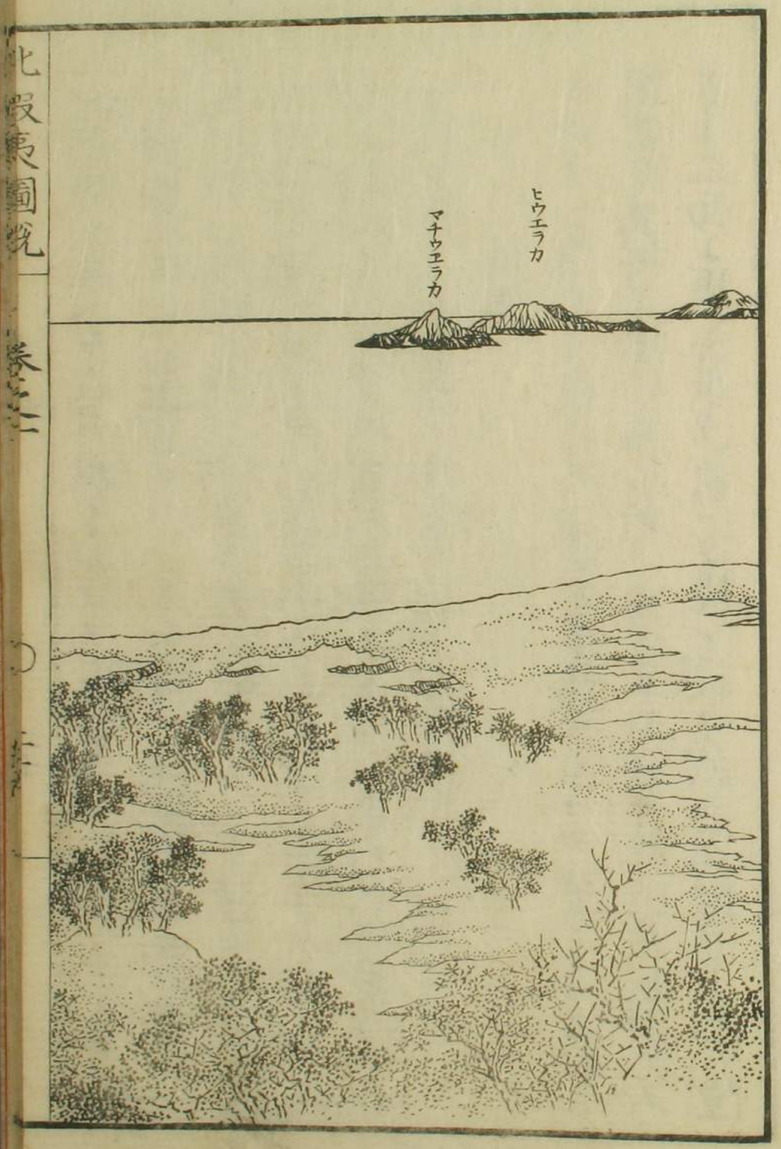
ホコベイ
眺望圖




ラカタ
ナニラー


イトロス
イシラー


ヒロメーツフ
ハチーメウラ
チヨロムタカツフ
ヤカセイ


ヒウエラカ
マチウエラカ

れ波濤又激入るそれぞ猶イレラヲーよりブイロに至るが如く難事多くと云是スメレンクル夷の演話なる處なり

一凡地勢を概論するもの少き前の數條にてはきわ他海底の淺深泊灣の難易詳載せひんがあるべくとゐくかも其事れ錯雜なる為に此巻只緊論を出て後日沿海圖說てよものを編て其委曲を陳載なべくと云爾

附記

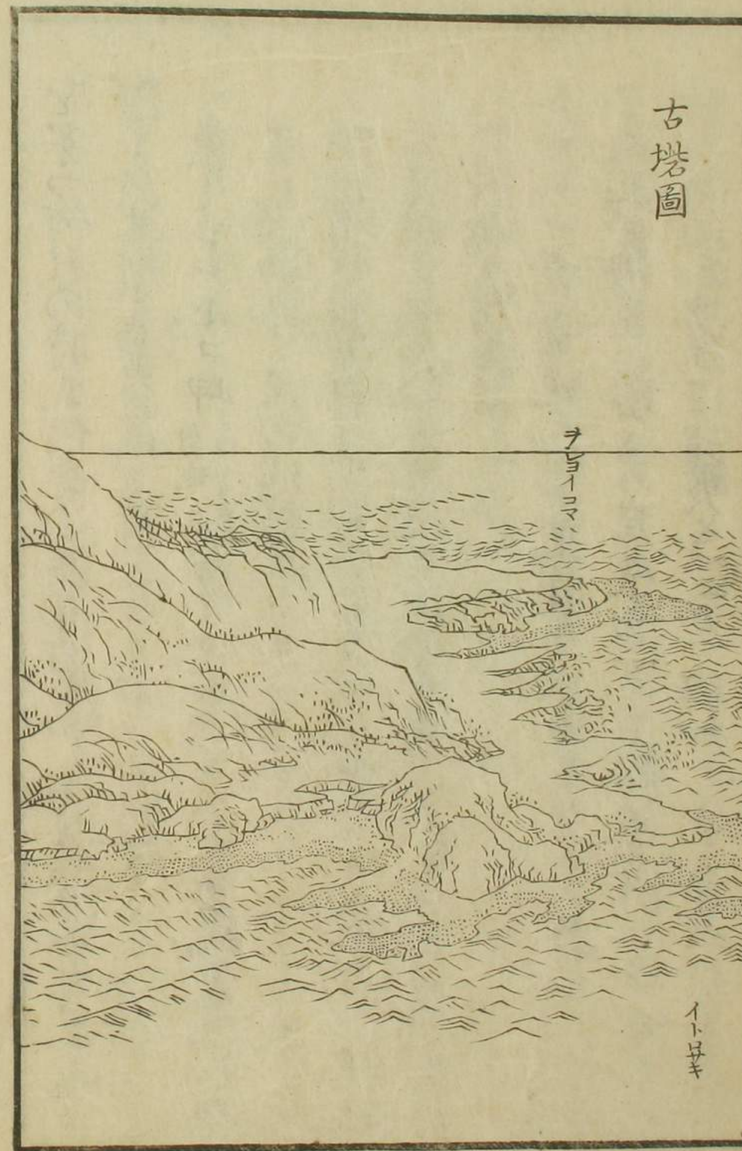
一シラヌシを云るあるべく凡二里許東海岸にコバハウと称ひる所あり其所に塔の舊址あり夷言チヤシと称ひ其狀圖のごとく三面に堤を築き前一方堤を設るべく三方の堤下悉く陥

を穿つ何れの時又何者の造る所か年月塔主なきなるべくべく其製島夷の他る所にあらざるに似たり

東をシレトコ岬奥地にある者西を十二ヲーより奥地東北の海岸凡百四五十里の間林藏に至て浮ざるべく次なり故に其地理夷然詳盡なることあるべくとゐくとも衆夷の演話なる所大抵其概を思ひなるの為に是れて故に其事を集めて此所に附記ひ

一シレトロより奥地凡二十里許にてクキヲーと称なる所あり此間の海岸ハ総て岩岸壁立にして船をよびぎ所なき故に此間の地理は諸夷とゐくとも辨知なるものなし夫よ

古塔圖



又奥地ヨルン○メルコアー○ヌイ○ヒロヲー○ラタヲー
○一カチヨムヲー○シヤヱ○ヒレントーなと称する所數
十里の間悉くヲロツコ○スメレンクル夷の部落にして其
居夷も許多なるなと堅知なくして其地理ハ大抵南方ト
ンナイチヤよりシレトコに至る海岸のごとく入湾ふして
沙地なり此邊ハ沼湖の多きなと西海岸ノテトの奥地の如
しと云此邊の居夷も ハ往昔満州に入貢せしふ近代絶て入
貢しるなきなりと語る

一西海岸イシラヲーより凡二十里許北地にカウトと称し
る所あり是この島極北の地ふして西海岸の地境此所には

きゆ其東韃地と相隔るの間ハ大抵ノテトより南方イトイ
れ間ふして韃地と望むべきなり此邊徐てマンコー河口と
うする處ハ潮水淡薄ふして其増減し北海より進退し
るなきなり故に鱒鮭雑魚の類も多く群集し地夷と養
ふふ是ハ故に此邊住夷多く凡三十四五落ありて皆スメ
レンクル○ヲロツコ夷の居域なり其内タムラヲースタム
ラヲー○カウトの三處ハ夷家殊に多く大抵每落數十屋あ
り此ハ満州の命なる所ハラタ○カーシンタなと称する酋長
のもとに居して時々満州に入貢し冬月海面凍合の候に至
り此ハ山旦夷も来居なりて交易をなすとい ひしと云

一カウトより東海岸凡二十里許ありてヒレントーに至る其間一大岬あり地形大抵タライカよりクキヲーに至る海岸のごとく岩崖石磯多く且東大洋とうる所なれば怒濤いつも高激なりて夷船の往返絶てなし得ざる所なり只仲春より初夏の間北海より碎氷の流れ出ると待て地夷舟と出し氷上出遊の水豹を獵し得ること多し只此時のみ海上時々平坦なることいつくしと云

一此島の住夷ハ大抵海岸のみ居をなして山居の者なし只奥地よりムてトモーと称する川ある島中一二巨流なり其両岸土著の夷落凡廿四五所ありて其族ハ悉くヲロツコ○スメレンクル夷なりて産業も亦異なるところなく山獵をして得るところの諸獸皮ハ悉く山且夷ハ交易しトモー川より漁をして鱒鮭雑魚を得て食糧となし此トモー川ハ源シー川源のほとりより發して東北に流るること數十里東北海岸ヌイや称する所の湖中に入て東海に流る其水遅流なりて急逆の所少々也バ通船敗没の愁なく且河邊山獵も多く河中の産魚も亦住夷を養ふに足れり故に東西海岸の住夷結婚通税をする者少なくして時々其處に往返をすることあり東ヒタライカ　シー邊より川を上りて舟行し積雪凍合の節に及て舟を裝し犬に曳せ河漢氷上を渡りて其所に至る○西

はイトイ　ムカッチヨンといふ両處より往返して僅小路痕を存ずれば通行難叉なしとひとし云

以上四條林藏夷話ふきく所なれど齟齬の事も亦多き成でとふべども唯後考の便に為す爰に記す

産物部

一草の類異種の物と見ゆ只雜草の多くして花草の類更ふ愛翫ゆべきものなし

一萱の類絶て産ずる物あり

一竹ハ小竹とふべども産ずる所なく只シラヌシの邊箬と生ずるのみ

一此島多きものあて木なりゆる所叢生せざる處なし然ども只雜木のみ多くして大木良材と称すべき物あり只エゾ松。トド。シユンクの三種を以良材とす

一地勢中に載ゆるごとく山火樹木を焼はらふとふべども其後凡四五年を經ばトド。蝦夷松の類わづかに其跡に發生して他の雜木と産せば其繁茂の狀直幹競ひ立て實ふ竹林の如しと云此他草木ともに蝦夷島の産ずる所のごとしとふべども其種類大ふ少しと云

一五金の産然て見聞ずる所なしとふべども希ふ其氣を見る事あれば蓋し出産の地あるべし

トナカイ圖

リキンカモイ圖

一此島ハ硫黄を産する山ハ故ハ林藏經る所総て焼山温泉あることあり

一石品ハ異なる者を見ル只アテケーよりイドイ共地名ハ色るの海岸多く石膏を産て

一鳥ハ類ハ蝦夷島ハ異る者を見ル奥地異信夷の部落ハ入て夏月鴈多くして子を産ル又其羽隊失て飛ハ

ずハ沼湖の内ハ游ル夷等大て是を咬獲セ

一獣ハ蝦夷島ハ此所の物二種あり其一をトナカイと称ル其全形鹿の如くあり圖のごとく其面目ハ馬ハ似たり其

角枝多く突たつとも柔軟ふして物を傷らず悉く毛皮を蒙る其尾ハ牛のごとくふして細し此島南方の地ハ山ふ居ハて夷等是を獵し皮肉を取る奥地ヲロッコ夷ハ是を養ハて業とす其獸たるや懦弱ふして能く人ふ馴服ス

夜譚隨録云似麋而大者曰堪達爾汗髭其即麋也前昂後低多力毛粗而長為裘暖角扁而厚為決良人以其皮可裘而角可決也驟馬濤逐而獵之獲利厚

其一をリキンカモイと称ス其形牝鹿のごとくふして牙ハ大さ犬の如く黒色カラフ夷等是を獵し皮を取て肉を喰ふ

一貂南方の産ふる所ハ其色黄ふして下品なり奥地ハ至るふ隨て毛色黒し是を上品とス滿州夷是を悦ふ

池北偶談曰今朝極貴玄狐次貂次猞猁猻玄狐惟王公以上始得服

一東ハタライカ西ハノテトの邊ハ奥地ハ海獸殊ふ多し春分鯡漁の候タライカの海上獸ハ波上ふ出没ハるあふ鳧鷗の羣集ハるふ如し

一海魚の類総て蝦夷島の産ハる物のごとし只西海岸ハアルコイ○ハチユツチエツフと称ハる小魚あふ其狀皆鱸魚のごとくふして少なる者大さ七八寸なる者をアルコイと称

して三四寸なるものとなり、千ユツ千ユツプと名づく東部の俚言せいだと称する者のごとく暮春の須海岸に群集ひる
ものと殊ふ影し
一山澗の石ある處ゆ何ぶの所に鰐多く其形狀の怪しきを以て夷等恐怖して是を喰せず
一シラヌシトウクシユンコタンよりるの間暮春より仲夏の間海上鯨魚多く漁終て後其所在をとゝぐ
一タライカの湖中鮒多く産ひ其大さ尺餘のもの多く其形狀日本地の物と小異なりと云ふ此處の海中海扇多く
一トウフツの湾ウシホトの湾多く牡蠣を産ひ

一奥地のノテトよりワケーの邊小汀目魚多く其大さ僅二三寸を限とひ種類の異るもの幾品あるやゝと辨知しがたし
地夷網を以て是を獲ふ只是のみを得て他魚あることなし
一千ヤカドイと称する所より奥地異種の鮭魚を産ひ其肉色殊ふして赤く常の鮭と異なり
一蟲の類異形の者を見ひ大抵蝦夷島にある處の如し蚊虻の類甚多きなり蝦夷島より越たりと云

北蝦夷圖說巻之二終